

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172101103		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム大垣 (1階)		
所在地	岐阜県大垣市宝和町15		
自己評価作成日	令和5年7月7日	評価結果市町村受理日	令和6年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2172101103-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和5年8月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自立支援ケアによる根拠のあるケアを実施しております。水分・栄養・運動・排泄を軸に、個々に合わせた水分量やBMIや血液検査からタンパク質や鉄分の摂取、運動をすることで、排泄を促し、結果認知症状の緩和や薬剤の減量を実現しております。
 その他、個別支援として利用者様のお誕生日にはなるべく好きな事、やりたいことの実現が出来る様に取り組んでおります。お寿司屋やお酒、買い物など、個別支援にも力を入れております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人全体で認知症ケアに取り組み、ホームでも前向きに取り組んでいる。自立支援ケアに取り組み、水分摂取や栄養管理・運動等を積極的に取り入れ、認知症状の緩和などの成果を得ている。
 まだ、コロナ禍の影響は大きく、ホームの取組みに制約がある中、ホーム内で出来ることを積極的に行っており、利用者のホームでの生活が穏やかで楽しくなるように日々取り組んでいる。新型コロナウイルス感染症も第5類に移行され、地域の行事も少しずつ再開されており、近隣の寺院で行われたバーベキューに参加出来たりと、今後の取組みに期待が持てる。
 法人ホームページにはホームの写真ギャラリーや、ブログにてホームの取組みや利用者の様子を写真で紹介しており、利用者家族からも好評を得ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根ざした、その人らしい普通の生活を理念におき、毎日、朝・夕礼において職員全員で唱和し実施しています。	理念を事業所内に掲示し、職員はいつでも確認できる。研修計画にも組み込まれ、朝・夕に唱和している。理念の理解・周知に向けた取組みは継続的に行われており、日常業務に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により地域のイベントはなくなり、ホームからの動きもないが、5類になり今年度自治会のイベントへの参加など予定している。	新型コロナウイルス感染症も第5類に移行し、地域の行事が少しずつではあるが開催される予定である。ホームとしては感染状況を確認しながら、イベントへの参加やホーム行事を再開する予定である。	新型感染症も第5類に移行され、地域行事も少しずつ再開されている。今後の取組みに期待したい。
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により現在も郵送での対応をしている。お手紙により、助言やアドバイスを頂いている。	運営推進会議は書面での開催を継続している。配付する議事録には、意見書を添付し、意見や要望を聞けるようにしている。対面・集合での開催については検討を行っている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録提出や大垣市役所介護保険課へ足を運び、提出書類など不明な点については積極的に質問をさせて頂いている。	行政担当課とは、電話やメールを主に情報交換を行っている。対面での話し合いも可能であり、研修や必要な情報は得ることが出来ている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時には研修実施や4か月に1回のチェックシートによるユニットの評価、3ヶ月に1回の全職員に研修も実施している。身体拘束廃止委員会による各職員の振り返りも法令を守り実施している。	身体拘束は行わないことを基本としている。身体拘束廃止に向けた研修や勉強会が、定期的に行われており、日常の業務について全職員が「不適切ケアチェックシート」による振り返りを行い、拘束のないケアを実践している。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時には研修実施や4か月に1回のチェックシートによるユニットの評価、3ヶ月に1回の全職員に研修も実施している。身体拘束廃止委員会による各職員の振り返りも法令を守り実施している。	虐待防止に向け、研修が行われている。虐待について職員が正しく理解し利用者や接することが出来るよう、法人全体で取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年ホーム内研修で権利擁護について実施している。対象の方がいれば、都度対応についてホーム会議で共有している。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の終結時には、重要事項説明書、契約書など、全て読み上げて説明しています。特にトラブルとなりやすい項目については、質問を受けながら、誤解が生じないように丁寧に行っています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を利用し、ご家族様、地域包括の方にも意見・助言を頂くようにしています。また、ご家族様アンケートを年一回行っていて、家族様の率直な意見を運営に反映させていただいています。	毎年家族アンケートを実施しており、家族の意見や要望を把握し、検討・分析してホームの運営に活かしている。家族等の訪問時や運営推進会議議事録に添付した意見書、訪問時や電話での連絡時に、意見や要望を把握するように努めている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議やユニット会議で職員の意見、要望を聞き、また個人的に意見を聞く機会をもつようにしています。年一回、職員満足度調査を会社として行い、職員の意見を聞く機会があります。	毎月の会議では、職員の意見や要望・提案を聞くようにしている。管理者とは日常的に話をすることが可能で、個別の面談も必要に応じて行っている。職員満足度調査が毎年行われており、職員が意見や要望を伝える機会は設けられている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	希望休として、毎月要望になるべく応えるようにしている。またキャリアパス制度があり、評価基準等の開示、教育も実施しており、職員の処遇向上にも努めている。	管理者は職員の勤務状況を把握し、希望休の取得やシフト調整等、職員が意欲的に就業出来るよう配慮している。資格取得や介護スキル向上を支援する仕組みもある。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス制度によるケア技術の評価項目の指導、個々に合わせてシフト作成等、業務を任せることで、スキルアップや責任感などの精神面での向上にも努めている。	認知症ケアや介護技術、利用者への接遇等について研修計画があり、職員のスキルアップを目指した取組みがある。キャリアパス制度があり、適切な評価を行い、職員育成に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ間での他事業所による交流は、不定期ではあるが、行事や研修などがある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物や食器拭き等、利用者様、職員と一緒に一日を過ごすようにしている		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事の食べる場所やお誕生日でのやりたいこと等、意向をなるべく聞き、実現するようにしている。また、困難な場合は、本人本位は当然のことながら昔の生活歴やご家族様のご意見も参考にしながら検討している。	利用者との日常の関わりの中で把握するように努め、職員間で共有し、検討した上で介護計画に反映させている。利用者本人から聞くことが難しい場合は、家族等からの意見を参考に検討している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ユニット会議でケアプランの内容について話し合いを実施している。その他、アセスメントも実施、ケアマネよりご家族様に意見を聞けるように手紙やお電話などもさせて頂いている。	介護計画は、定期的に更新されている。利用者や家族等の意向や要望の把握に努め、モニタリングを行い、利用者の現状に即した介護計画の作成に努めている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	電子記録になったことで、排泄数や食事のカロリー等、より緻密な記録となっている。また朝礼夕礼で共有の時間も持っている。電子記録の端末は各ユニット2台あり、確認しやすい環境である。	介護アプリケーションが導入されており、サービスの提供状況やバイタル等が個別に記録されている。記録された情報は確認しやすく、職員の日常業務に活かされている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	福祉用具や歯医者、病院への送迎など、ご要望に応じて調べ、最適な業者の紹介や時間調整をして送迎の対応など、柔軟に対応している。	福祉用具の情報提供や受診支援など、利用者や家族等が必要な支援を、ホームとして可能な範囲で対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年地域行事に参加予定、利用者様の楽しみになっています。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、ご家族様の希望病院を入居時に確認しています。提携以外は、ご家族様対応で行っています。不可能な場合は、スタッフが付き添い受診し、主治医と医療連携を行っています。	協力医の月に2回の訪問診療がある。専門の診療科への受診は原則家族対応となっているが、必要に応じホームで対応することもある。受診時の情報はホーム・家族間で共有され、協力医との連携により適切な医療が受けられる環境がある。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、サマリーの情報提供の交換を行い、入院中は病状の説明を受け、退院時、家族様にも入って頂き、病院と看護師とカンファレンスを行っています。安心して治療のできる関係作りに努めています。	入退院時の利用者の状況は、サマリーにて情報交換が行われている。「入院ノート」が作成され、協力医や家族等と利用者の情報を共有している。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化に伴い、当ホームが対応できるケアについて説明を行い、同意を得ています。また、体調に応じて都度状態の説明、ケアの方針、意向の確認も随時確認しています。	利用者や家族には、ホームで出来ることが説明されており、利用者の重度化や看取りについては、医師を含めた話し合いを行い、適切に対応している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内研修実施。急変の可能性のある利用者様が発生した場合は、都度職員と対応の確認をしている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災地震避難訓練、年1回水害避難訓練を実施している。	避難訓練が定期的に行われ、水害を想定した訓練もある。地域との協力体制の構築にも努めており、運営推進会議等で話し合っている。停電に対する備えもあり、救命救急講習の実施やAEDを備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム内研修でプライバシー保護について研修し意識の向上を図っています。日常的に、職員同士が注意しあい、プライバシーを損なわない声掛けや、対応を心がけています。	法人の研修計画に沿った研修が行われている。ホームでは会議内にて研修や勉強会が行われ、職員の知識や意識を高めている。職員同士で注意し合える環境があり、利用者に対して尊厳やプライバシー等に配慮している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、自己決定、選択する場面を作っています。TV番組の選択、外出先の選択など、自己決定できるように働きかけています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本の流れはありますが、利用者様の体調や気持ちを伺い、その方のペースにあわせて過ごしていただけるよう支援しています。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き、食器拭き等、出来る利用者様に行って頂いています。外食、お弁当をとったりと、気分を変え、食事を楽しんでいただいています。	食事の準備や片付けなど、利用者が出せることはやってもらえるようにしている。季節の行事に因んだ献立が提供され、利用者のリクエストにもホームで可能な範囲で提供しており、食事が楽しみの一つになるよう工夫している。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医、看護師と相談しながら、個々に適正水分量や血液検査の結果から卵などタンパク質摂取を意識した支援をしている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の状態によって、歯ブラシやスポンジ、口腔ケア用のティッシュ等、使い分けて支援している。また、希望者は訪問歯科でもクリーニングも実施している。	利用者の口腔内の状態を把握し、適切な口腔ケア用品を使用している。義歯の管理を含め、適切な口腔ケアを提供している。利用者の希望があれば、訪問歯科の診療を受けることも可能である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	なるべくトイレ誘導するように心がけている。座位が保てる限りは、二人介助でトイレに座ってことに努めている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	午前・午後問わず、ご本人の希望や気分に合わせて入浴して頂いている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の自由にして頂いている。ご自身で移動ができない、又は訴える事が難しい方へは、スタッフが状態を看て		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬事故防止の為、朝礼夕礼時に薬に関する問題やマニュアルの確認などを実施している。 また、変更がある際は、申し送りノートや朝礼夕礼で共有するようにしている。	服薬事故防止のためのマニュアルがあり、職員に周知している。薬は専用のコンテナを用いて保管している。薬の変更などがあった場合は、その都度「申し送りノート」や朝・夕礼にて職員に周知して間違いを防いでいる。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お散歩やお花の水やり、編み物、テレビ鑑賞等、個々に好きな事への支援をしています。	レクリエーション担当の職員が流しそうめんなどを実施するなど、利用者がホームで楽しめるように日々取り組んでいる。利用者のADLに合わせて出来ることをやってもらい、散歩や趣味や習慣が継続できるように取り組んでいる。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様対応で、外泊や外食に出かけた、いきつけの美容院へ行ったりとなるべくご希望に沿って支援している。	外出の希望はあるが、まだ制約が多く、コロナ禍前のように行えていない。家族の協力を得ながらの取組みとなっている。最近では、町内の寺院のバーベキューに参加しており、少しずつではあるが外出機会が得られるようになった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム内での現金を利用者様に預けることはしていないが、外出先でお会計をスタッフ同伴のもとでやって頂いたりしている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望あれば、いつでもお電話して頂くようにしている。携帯電話を持参しており、自ら電話をされているご利用者様もおられる。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット会議時に環境や席の配置など見直しを行っている。	共有空間は担当を決めて清掃しており、定期的に換気を行うなど、衛生面に配慮している。季節感のある作品を掲示し、利用者に季節を感じてもらえるようにしている。利用者同士の相性も考慮して席を決める等、快適に過ごせるように工夫している。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者様同士で席をとなりにしたりとご利用者様が楽しめるように席配置を考えている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時に持ち込みの説明や転倒リスクなどの観点からタンスや椅子など、追加で家から持参して頂くなど、ご依頼することもある。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内は動線に配慮した家具配置、共有部は家事活動時に他の利用者様の妨げにならないように気を付けたり、利用者様間でのトラブルを起こさない、安全に配慮した配置を意識している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172101103		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム大垣 (2階)		
所在地	岐阜県大垣市宝和町15		
自己評価作成日	令和5年7月7日	評価結果市町村受理日	令和6年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajikokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2172101103-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和5年8月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自立支援ケアによる根拠のあるケアを実施しております。水分・栄養・運動・排泄を軸に、個々に合わせた水分量やBMIや血液検査からタンパク質や鉄分の摂取、運動をすることで、排泄を促し、結果認知症状の緩和や薬剤の減量を実現しております。その他、個別支援として利用者様のお誕生日にはなるべく好きな事、やりたいことの実現が出来る様に取り組んでおります。お寿司屋やお酒、買い物など、個別支援にも力を入れております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根ざした、その人らしい普通の生活を理念におき、毎日、朝・夕礼において職員全員で唱和し実施しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により地域のイベントは無くなり、ホームからの動きもないが、5類になり今年度自治会のイベントへの参加など予定している。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により現在も郵送での対応をしている。お手紙により、助言やアドバイスを頂いている。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の議事録提出や大垣市役所介護保険課へ足を運び、提出書類など不明な点については積極的に質問をさせて頂いている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時には研修実施や4か月に1回のチェックシートによるユニットの評価、3ヶ月に1回の全職員に研修も実施している。身体拘束廃止委員会による各職員の振り返りも法令を守り実施している。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時には研修実施や4か月に1回のチェックシートによるユニットの評価、3ヶ月に1回の全職員に研修も実施している。身体拘束廃止委員会による各職員の振り返りも法令を守り実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年ホーム内研修で権利擁護について実施している。対象の方がいれば、都度対応についてホーム会議で共有している。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の終了時には、重要事項説明書、契約書など、全て読み上げて説明しています。特にトラブルとなりやすい項目については、質問を受けながら、誤解が生じないように丁寧に行っています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を利用し、ご家族様、地域包括の方にも意見・助言を頂くようにしています。また、ご家族様アンケートを年一回行っていて、家族様の率直な意見を運営に反映させていただいています。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議やユニット会議で職員の意見、要望を聞き、また個人的に意見を聞く機会をもつようにしています。年一回、職員満足度調査を会社として行い、職員の意見を聞く機会があります。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	希望休として、毎月要望になるべく応えるようにしている。またキャリアパス制度があり、評価基準等の開示、教育も実施しており、職員の処遇向上にも努めている。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス制度によるケア技術の評価項目の指導、個々に合わせてシフト作成等、業務を任せることで、スキルアップや責任感などの精神面での向上にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ間での他事業所による交流は、不定期ではあるが、行事や研修などがある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物や食器拭き等、利用者様、職員と一緒に一日を過ごすようにしている		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事の食べる場所やお誕生日でのやりたいこと等、意向をなるべく聞き、実現するようにしている。また、困難な場合は、本人本位は当然のことながら昔の生活歴やご家族様のご意見も参考にしながら検討している。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ユニット会議でケアプランの内容について話し合いを実施している。その他、アセスメントも実施、ケアマネよりご家族様に意見を聞けるように手紙やお電話などもさせて頂いている。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	電子記録になったことで、排泄数や食事のカロリー等、より緻密な記録となっている。また朝礼夕礼で共有の時間も持っている。電子記録の端末は各ユニット2台あり、確認しやすい環境である。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	福祉用具や歯医者、病院への送迎など、ご要望に応じて調べ、最適な業者の紹介や時間調整をして送迎の対応など、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は地域行事に参加予定、利用者様の楽しみになっています。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、ご家族様の希望病院を入居時に確認しています。提携以外は、ご家族様対応で行っています。不可能な場合は、スタッフが付き添い受診し、主治医と医療連携を行っています。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、サマリーの情報提供の交換を行い、入院中は病状の説明を受け、退院時、家族様にも入って頂き、病院と看護師とカンファレンスを行っています。安心して治療のできる関係作りに努めています。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化に伴い、当ホームが対応できるケアについて説明を行い、同意を得ています。また、体調に応じて都度状態の説明、ケアの方針、意向の確認も随時確認しています。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内研修実施。急変の可能性のある利用者様が発生した場合は、都度職員と対応の確認をしている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災地震避難訓練、年1回水害避難訓練を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム内研修でプライバシー保護について研修し意識の向上を図っています。日常的に、職員同士が注意しあい、プライバシーを損なわない声掛けや、対応を心がけています。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、自己決定、選択する場面を作っています。TV番組の選択、外出先の選択など、自己決定できるように働きかけています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本の流れはありますが、利用者様の体調や気持ちを伺い、その方のペースにあわせて過ごしていただけるよう支援しています。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き、食器拭き等、出来る利用者様に行って頂いています。外食、お弁当をとったりと、気分を変え、食事を楽しんでいただいています。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医、看護師と相談しながら、個々に適正水分量や血液検査の結果から卵などタンパク質摂取を意識した支援をしている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の状態によって、歯ブラシやスポンジ、口腔ケア用のティッシュ等、使い分けて支援している。また、希望者は訪問歯科でもクリーニングも実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	なるべくトイレ誘導するように心がけている。座位が保てる限りは、二人介助でトイレに座ってことに努めている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	午前・午後問わず、ご本人の希望や気分に合わせて入浴して頂いている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の自由にして頂いている。ご自身で移動ができない、又は訴える事が難しい方へは、スタッフが状態を見て		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬事故防止の為、朝礼夕礼時に薬に関する問題やマニュアルの確認などを実施している。 また、変更がある際は、申し送りノートや朝礼夕礼で共有するようにしている。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お散歩やお花の水やり、編み物、テレビ鑑賞等、個々に好きな事への支援をしています。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご家族様対応で、外泊や外食に出かけたり、いきつけの美容院へ行ったりとなるべくご希望に沿って支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム内での現金を利用者様に預けることはしていないが、外出先でお会計をスタッフ同伴のもとでやって頂いたりしている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望あれば、いつでもお電話して頂くようにしている。携帯電話を持参しており、自ら電話をされているご利用者様もおられる。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット会議時に環境や席の配置など見直しを行っている。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者様同士で席をとなりにしたりとご利用者様が楽しめるように席配置を考えている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時に持ち込みの説明や転倒リスクなどの観点からタンスや椅子など、追加で家から持参して頂くなど、ご依頼することもある。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内は動線に配慮した家具配置、共有部は家事活動時に他の利用者様の妨げにならないように気を付けたり、利用者様間でのトラブルを起こさない、安全に配慮した配置を意識している。		